# 西濃農林事務所の普及活動状況（令和７年 10 月）

## 今月の重点活動

### ■水稲　再生二期作の実証を開始

【生育状況の確認】

県では、食料自給率の向上を最重要課題とし、新たな基本計画に盛り込むことが検討されている。また、令和の米騒動により米増産への取組みが重要な課題であり、対策技術の一つとして全国的に 「再生二期作」が注目されており、県でも実証を行っていくこととしている。

海津地域は早生品種の作付地帯であり、再生二期作の実証に適していることから、生産者の協力のもと、農業技術センターと連携し、再生二期作の実証ほを設置し、再生二期作に適した施肥の検討を行っている。

10 月９日には、県関係機関で再生株の生育状況を確認し、今後の調査方針を決定した。

農林事務所では、今後も再生二期作の地域適応性と普及性について検討をしていく。

## 安心で身近な「ぎふの食」づくり

### ■水稲・（農）大巻、（株）イイダ農園　稲こうじ病の発生抑制

【稲こうじ病】

養老町で課題である稲こうじ病について、昨年から新技術開発普及支援事業による対策実証を行っており、10 月１日に発病調査を行った。

転炉スラグと出穂予測システムに基づいて農薬散布した水田では、慣行に比べ発病率が５分の１以下となり、発病抑制効果を確認できた。

農林事務所は、対策に要したコストを分析し、費用対効果を農業者へ説明していく。

### ■小麦　令和７年産小麦実証結果の報告（グリサポ事業）

【検討会の様子】

10 月 30 日、ＪＡにしみの本店において、ＪＡにしみの営農連絡協議会区域会長会が開催され、今後の活動計画について検討が行われた。

農林事務所からは、令和４～６年度にグリーンな栽培体系への転換サポート事業で取り組んだ小麦の実証事業の結果について説明を行った。今回の事業試験の結果から、小麦では脱プラスチック肥料の採用は難しく、農林事務所では、減プラスチック肥料の採用に向けての実証を継続支援していく。

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

### ■冬春トマト　養液栽培研究会　小グループ活動の実施

【グループ活動の様子】

海津トマト部会養液栽培研究会は、栽培技術の向上を目指して、栽培方式ごとに分かれて小グループ活動を実施しており、10 月 20 日に今年度第１回目の活動が行われた。

今年は昨年に続き異例の酷暑となったが、各生産者がハウス天井フィルムへの塗布剤や強勢台木を導入するなど、暑さ対策を行った。グループ活動では、栽培状況や暑さ対策の状況を共有し、対策方法の検討が行われた。

農林事務所はオブザーバーとして参加し、質問に対する助言や情報提供を行った。

■きゅうり　海津胡瓜部会現地検討会・栽培研究会の開催

ＪＡにしみの海津胡瓜部会は、10 月 14 日にＪＡにしみの海津中支店において、現地検討会・栽培研究会を開催した。

現地では、病害虫について各種注意報が発令されている中、ハウス内は比較的小発生で抑えられていた。

室内では、種苗会社からの説明後、農林事務所から気象状況（長期高温）及び遮光・遮熱剤の実証経過やアンケート結果、除去剤の情報提供を行った。また、農薬や病害虫、異物混入対策について指導を行った。

令和８年産は高温対策として、遮光・遮熱剤が 17 戸で導入された。夏期終了後の除去剤使用は３戸が実施済みで、２戸が実施予定である。農林事務所では、引き続き、採光を重視した管理の重要性を訴えていく。

【ほ場巡回の様子】

■下宮青果部会協議会　土壌診断個別面談の実施

10 月 28、29 日、農林事務所は下宮青果部会協議会の生産者に対し、土壌診断結果に関する個別面談を開催し、数値に基づく施肥管理指導を行った。

石灰やリン酸の過剰蓄積事例が目立ち、そうしたほ場では更なる資材投入はしないこと、深耕により作土中の石灰等の含有率を下げることを提案した。

土壌診断は作物の健全な生育のためだけでなく、コスト低減や環境保全にも資する重要な取り組みであるため、農林事務所では同協議会の全生産者（74 名）が土壌診断を実施するよう呼び掛けていく。

【個別面談の様子】

■なばな・春菊　初期生育は順調

ＪＡにしみの海津ナバナ部会・海津春菊部会では、冬野菜のなばな、春菊の栽培が始まっている。

なばなは９月中旬から、春菊は９月下旬から播種が行われている。今年も９月が暑かったことから、両品目とも播種を遅くする生産者が多く、育苗中の発芽不良やまき直しは例年より少なくなっている。春菊では特段害虫の被害は見られないが、なばなではアオムシやアブラムシが発生しており、巡回時に防除指導を行っている。

両品目とも、11 月に目揃え会が予定され、農林事務所は今後も栽培管理や病害虫防除を指導し、品質の良い野菜生産を支援していく。

【定植された春菊】

■みかん　早生みかん出荷説明会の開催

10 月 11 日、南濃みかん部会は、ＪＡにしみの南濃選果場で早生みかん出荷説明会を開催した。

最初にＪＡ担当者より今年度のみかんの出荷方法の説明があった後、目揃えが行われた。農林事務所からは、気象経過、果樹カメムシ類のトラップへの誘殺数の推移を説明した。

昨年 10 月、南濃みかんはツヤアオカメムシの被害を受け、早生みかんの多くが落果した。農林事務所は今年３回のカメムシの防除情報を発信しており、これまでカメムシの被害はみられていない。今後も被害のないみかん生産を支援していく。

【出荷説明会の様子】